



日本湿地学会第9回大会報告

1. 学術報告会及び特別シンポジウム

2017年9月9日(土)、東京農工大学府中キャンパスにて日本湿地学会第9回大会が開催された。学術報告会は口頭発表とポスター発表あわせて18題の報告があり、64名の参加があった。本大会では、湿地学会では初となるユースセッションが行われ、5題の報告があった。また、特別シンポジウム「湿地研究の発展方向について～『図説 日本の湿地』の刊行とその意義～」が開催された。

●第7回大会プログラム

○一般講演

1. 「ラムサール条約の義務に則した登録地の管理」
鈴木詩衣菜 (上智大学大学院地球環境学研究科)
2. 「湧水湿地を利用する野生動物とその行動」 富田啓介 (愛知学院大学)
3. 「インドネシアの熱帯泥炭地における地下水位と地表面高の変動について」
高橋英紀 (NPO 北海道水文気候研究所)・繁永幸久・濱田洋平 ((株) みどり工学研究所)・
大崎 満 (北大農学院)・バンバン セティアディ (インドネシア国立研究評議会)
4. 「北海道における湿地文化インベントリ作成と分析評価の試み」
高田雅之 (法政大学)・牛山克己 (宮島沼水鳥・湿地センター)・太田貴大 (長崎大学)・
三島啓雄・小熊 宏 (国立環境研究所)
5. 「大沼ラムサール協議会の5年間の活動とこれからの展望」
吉田浩平・池田 誠・金澤晋一 (大沼ラムサール協議会)
6. 「東京湾沿岸におけるウラギクの分布調査と保全・再生手法の模索」
倉本 宣・三島らすな・岡田久子 (明治大学・農学部)・Tim Gardiner (Essex Nature Club)
7. 「16年間の長期モニタリングと順応的管理による人工湿地の群落種組成の変遷」
矢部和夫 (札幌市立大学デザイン学部)・中谷暢丈 (酪農学園大学)
8. 「日本の湿地保全におけるラムサール登録の有効性：航空写真にみる環境変化から」
安藤元一 (ヤマザキ学園大学)
9. 「湿地の文化」と地域づくりを支える「教育」にかんする研究 (その1)」
佐々木美貴 (日本国際湿地保全連合)
10. 「湿原内に生育する矮生ハンノキの萌芽動態と養分利用特性」
植村 滋 (北海道大学)・見原悠美 (エコニクス)・矢部和夫 (札幌市立大学)
11. 「福沢諭吉『学問のすすめ』における「文明」と自然～近代化と湿地・自然に関連する東アジアの伝統～」
笹川孝一 (法政大学)
12. 「干潟再生事業をめぐる住民の認識」
山下博美 (立命館アジア太平洋大学)・三上直之 (北海道大学)

○ポスター講演

- A. 「日本にカワウソが生息できる環境はあるか：韓国との比較から」
金 炫禎・伊勢 紀・増澤 直・福田正浩 (株式会社地域環境計画)・小川 博 (東京農業大学)・
安藤元一 (ヤマザキ学園大学)
- B. 「石狩川下流幌向地区における湿原再生に向けた取り組み」

新庄久尚（株式会社エコテック）・松本洋光（北海道開発局札幌開発建設部江別河川事務所）・
小本智幸（株式会社ドーコン）・坂元直人（株式会社エコテック）・古西 力（株式会社ドーコン）・
矢部和夫（札幌市立大学）

C. 「泥炭地湿原の地下水流動解析」

藤村善安・山本芳樹（日本工営（株）中央研究所）

D. 「気象が湿原のミズゴケ小丘の水挙動および水質形成に及ぼす影響」

矢崎友嗣（明治大）・佐藤奏衣（札幌市立大）・矢部和夫（札幌市立大）・木塚俊和（道総研）

E. 「神奈川県・東京都におけるミズニラ生育地に影響を与える人為的管理について」

相澤 直（明治大・院・農）・倉本 宣（明治大・農）

F. 「全天空遠隔監視システムと画像解析を用いたマガン飛来数のモニタリング」

山田浩之・横山 諒（北大・農学研究院）・牛山克巳（宮島沼水鳥・湿地センター）・

嶋田哲郎（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

●大会実行委員

実行委員長 朝岡幸彦（東京農工大学）

実行委員 田開寛太郎，坂本明日香，田辺穂高（東京農工大学）

2. 2017 年度理事会

第一回目の理事会を 2017 年 5 月 14 日（日）に法政大学にて，第二回目の理事会を 2017 年 9 月 8 日（金）に東京農工大学府中キャンパスにて開催した。

第一回理事会では，2016 年度決算案および 2017 年度予算案について協議が行われ，予算案ではアジア湿地シンポジウムの主催団体の一員として 10 万円を拠出することが決定された。会員の取り扱いについて、「定年退職後に定職についていない会員」「常勤職についていない会員」に対する会費減額措置について検討し，いずれも一般会員扱いとすることとした。また，学生会員における学術振興会特別研究員や科学技術振興事業団特別研究員などの有給研究員の扱いについて検討し，有給であっても学生の身分であれば学生会員として扱うこととした。会則に明記されている「名誉会員」の扱いについては継続審議とすることとした。大会について，2016 年度大会（中海・宍道湖）の報告があり，大会補助費が適切に運用されたことが確認された。他，2017 年度大会および 2018 年度大会について検討が行われた。アジア湿地シンポジウムについては，湿地学会が主催する初めての国際会議となり，会員の積極的な参加を呼び掛けることを確認した他，参加者には湿地研究のバックナンバーを無償配布し，併せて英文の会員募集チラシ，入会申込用紙，刊行・投稿規定を配布することとした。理事選挙について，実施方法に関する方針，選挙管理委員会の所在，スケジュールについて検討を行った。選挙の方針として，前回選挙時のような役員選考委員会などは設けず，理事候補者は純粹に会員の推薦と立候補によるものとし，公平性と透明性を確保することとした。また，部会設置に関して笹川企画担当理事より提案があり，すべての会員に開かれた部会の設置により湿地学会および湿地研究の活性化が図られるとの理解から，理事会として学会内に部会を設置することに合意し，今後は具体的な設置方法や運用ルール等について検討を進めることとなった。

第二回理事会では，翌日の大会および総会に向けての協議が行われ，特に部会の設置と運営に関する細則について検討が行われた。2018 年度大会について，開催地を代表して大畑理事より日程と内容について提案があった他，湿地学会創設 10 周年大会にあたるため，企画担当理事が中心となって記念セッション等を検討することとなった。アジア湿地シンポジウムと関連して，今後は国外から入会申し込みがある可能性もあることから，海外会員の取り扱いについて検討することとなった。理事選挙については，その実施方法，ス

ケジュール、選挙管理委員会の所在について検討が行われた。また、学会創設時の検討課題であった学会ロゴを作成することを改めて理事会で承認し、具体的な方法について事務局で検討した上で、来年の学会創設10周年に向けて準備を進めることとした。湿地学会のホームページについて、デザインと使い勝手の向上のための改正を広報担当理事と編集担当理事で検討し、状況に応じて今年度内に改正を行うこととした。

3. 2017年度総会

2017年9月9日（土）、東京農工大学府中キャンパスにて総会が開催され、43名の参加があった。なお、委任状の総数は29通、すべて議長に一任であった。

議事の概要は以下の通りである。議長は國井秀信前大会実行委員長、記録は小林聡総務担当理事が行った。

◇議事1 2016年度事業及び決算報告

資料に基づき牛山事務局長より2016年度事業報告が、佐々木財務担当理事より2016年度決算報告があった。林監事より監事を代表して予算執行が適切であったことの報告があり、承認された。

◇議事2 2017年度事業計画及び予算案

資料に基づき牛山事務局長より2016年度事業案、佐々木財務担当理事より2016年度予算案の説明があった。会場から予備費の増額について質問があり、部会設置の手続きが整ったため、部会設置を促進したいこと、学会誌編集業務の軽減を検討中との説明があった。挙手により賛成者多数で承認された。

◇議案3 部会設置のルールについて

部会設置の細則について説明があり、理事会で承認されたことが笹川理事から報告された。

◇その他

1) 理事会からの報告事項

島谷学会長から前日の理事会について報告がされた。学会監修の『図説 日本の湿地』刊行、アジア湿地シンポジウム2017（佐賀市）の開催予定について報告があった。また、次期理事会選挙について、九州大学に選挙管理委員会を設置し、九州在住の学会員で構成する予定であること、予定として年末に立候補／推薦を受け付け、年明けに投票を実施したいとの報告があった。また、部会設置の細則を承認した経緯等の報告があった。

2) 2018年度大会について

愛知県豊田市自然観察の森を会場に、大会実行委員長を愛知学院大学の富田会員にお願いし、エクスカーション予定地として矢並湿地を、また湧水湿地に関するシンポジウムなども検討中であることが大畑理事、富田会員から報告された。

（日本湿地学会事務局）